

## 第6回「市民ふれあいトーク」－水島地区の個性と魅力を伸ばすには－

日 時 平成21年5月27日(水) 18:30～20:00

場 所 ライフパーク倉敷 中ホール

(市長)

みなさま、こんばんは。

今日は、市民ふれあいトークに、夕方のお忙しい時間帯に大勢の皆様、お越しくださいますて、ありがとうございます。

市民ふれあいトークでございますけれど、本日の場合は、個性と魅力を伸ばすにはということでございますけれど、各地区におきまして、それぞれの地域での課題やテーマ、もしくは子育てでありますとか、環境でありますとか、全市的なテーマこういうことで開催をしているものでございます。だいたい、毎月くらい、議会がありますときを除きまして開催をしているものでございます。

今日は皆様から、倉敷市の中での、この水島地区での個性と魅力、どういうふうを考えていらっしゃるのか、もっとこういうふうにできたらいいなど、そういうところをお伺いできればと思っています。今日は私と、水島支所長の三宅さんが一緒に参加をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いたします。

倉敷市は、人口が今現在、約48万人になっています。中国地方で広島市が116万人ということで一番多くて、その次がつい先日4月に政令指定都市になりました岡山市が約70万人、その次が私どもの倉敷市ということでございまして、広島と岡山は政令指定都市ということですので県と同じような立場になっています。ですので、純粋な市としてはわれわれが一番大きな人口ということになっています。

その中で、倉敷市では今大きく3つの方向性を市政の向かっていく方向として頑張っているところでございます。

まず、一つ目は子育てをするなら倉敷でといわれる町でございます。

この人口減少社会の中においてですね、なんとか他の都市との、若しくは他の県との競争に勝って是非ともここ、倉敷市にたくさんの人に住んでいただきたい。そういうためには子供さんのことをしっかり頑張っていく必要があるということでこれを掲げております。

二つ目が安心して暮らせる町ということなんです。

例えば、福祉のことでありますとか、それから我々の次の、そしてその次の世代へとつながっていく環境に配慮をした地球温暖化対策をしっかりとしていく、というようなもの、それから防災、災害に対する強い町を作っていくという、災害防災のしっかりした町、というような分野です。

そして、三つ目が個性と魅力を伸ばすまち、ということで、今日のテーマにもなっておりますけれども、倉敷市の個性と魅力をしっかりと、発揮をしていくことが必要だと思って

います。他の市との間で、競争も非常に激しくなっていますし、ちっちゃい町や村でも努力をして、いいものがあつたら、それを一生懸命全国へ発揮をされてます。

それによって、例えば新庄村のがいせん桜は全国から見に来られていると思います。そういうものを我々の倉敷市でもしっかり発揮をしていかなければいけないというふうに思っております。

個性と魅力を伸ばすということでは、いろいろな全国の地へ行ってますね、倉敷のことをPRし、また今の高速道路の千円効果ということで皆さんも、県外ナンバーがかなり来られているのを見られるんじゃないかと思えます。そういう機会をとらまえて、ここ、倉敷市に多くの人に来ていただけるようにしたいというふうに思っているようなしだいでございます。

倉敷市には水島地区をはじめとしてそれぞれの地区で非常にいい個性と魅力があると思えます。それを伸ばしていく、そして全国に、若しくは世界に向かって発信をしていくということをしつかりとやっていく必要があるかなと思っております。その是非ともヒントを今日、皆様方からいただきたいなと思っております。

あと、もうひとつですね、人口は48万人でございます。それから今の景気の状態に対応しまして財政状況も非常に厳しくなっているのも事実でございます。また、県からですね、財政構造改革プランというのが去年出まして、倉敷市に対する県からのいろいろな補助でありますとか、仕組みの方もカットするというようなことが随分きています。倉敷市自体でも昨年と比べて、税収が約60億近く下がるということで、これまでにない最大の予算の危機というような状況に今なっています。そのなかで知恵を絞って、頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

それでは、みなさんの中で、なんでも結構ですので、この水島のことについて、若しくは水島以外方から見たこの水島のことについて教えていただければと思いますのでよろしくお願いたします。

(参加者A)

以前、市長は緑のカーテンということで、ゴーヤとアサガオの話、私も遅ればせながら4月の末に市役所に行きまして種をいただき、ちょうど1ヶ月くらいで、お陰さまでかなり種が大きくなりました。それに毎朝、水をやって、顔をみるのが楽しみで家内と笑うんですけどね、今日はふれあいトークに行ったら家内が「かならず、市長にそれ報告しておいて」と言付かってきましたので、これを一番に言っておきます。

まず、倉敷市の観光案内のパンフレットなんですけど、6地区あるんですが今日は水島地区ということなんですけど、市長さんが色々回られて、各地区の反応とかそれぞれの地区はリンクしそうかどうか、感じだけでもいいですから教えていただけたら、我々も発言しやすいし、考え方もコンセプトがまとまるんじゃないかと思えます。

それと、今日、テレビで総理大臣と鳩山さんが党首会談をやって、一般市民の方にイン

タビューをして、こんな状態で日本は大丈夫なんだろうかと主婦の方が発言されていましたが、僕もそういう気がしました。だから、なおさら我々地方の者は市長のリーダーシップで、我々市民のレベルを上げて、市長のマニフェストを我々も深くできるだけ理解して、自分のできることはやる、そういうのが一番大切なんじゃないかと思ったんです。

最近、私、市議会に毎回出させてもらってるんですが、非常に勉強になりますね。非常にわかりやすく、ぜんぜん市政のことがわからなくても勉強できるんでね。やっぱり、個性とか魅力を伸ばすといっても、基本ができてないと、ベースがわからないと、自分個人だけの判断でやると間違えるのでね。

岡山県の中で経済の中心といったら岡山中心になっているんですが、税金を納めるのは水島港が一番多いんですから、水島の人は信念とか自身を持って、他の地区にPRするとか自分自身を磨いていって、僕、よく真備の人に刺激をうけるんですが、真備地区が一番、まとまりがあって人間性ができていて、たしかに真備の人と話をすると、心が洗われるというか、正直な純粋な人ばかりだなあと思うんですよ。児島とか水島とか海に近いのでどうしても荒海にもまれてますから、僕も島育ちだからよくわかるんですが、水島地区の人は真備とか倉敷地区とか他の地区とかを理解するようにすれば、もっともっと自分の個性や魅力が伸ばしていけるんじゃないかと。

(市長)

ありがとうございます。この中で市議会を傍聴されたことがある方、手をあげていただけますでしょうか？4人。やっぱり少ないですね。市議会にですね、是非、あ、今ケーブルテレビさんがいらっしゃってるので、ケーブルテレビでも見れるんですが、なるべくわかりやすく、それからその時々の特ピックスを議員さんが質問をされますし、また今この水島地区の選出の大橋さんが市議会議長さんでもいらっしゃるので、通常以上に関心も高まっているんじゃないかと思しますので、是非、見に来ていただけるようお願いいたします。

最初に言っていただきましたけれども、昨年、久しぶりに倉敷市の観光のパンフレットを改定いたしましたして、これまでよりも、ずいぶん明るい感じでわかりやすくしたつもりでございます。はっきり情報発信をしていかないと、修学旅行でも、もしくは還暦になられた方が倉敷の方へまた来ようと思っていただけるにしても、情報発信が一番重要だと思いますので、その観点で見直しています。

また、ゴーヤの種を植えていただいたということで、大変ありがとうございます。今日、私どもも市役所の職員で市役所の壁にゴーヤの壁といいますか、植えまして夏になったら、1℃でも2℃でも涼しくなればと思っています。

特に私どものこの倉敷市は水島コンビナートさんもあり、全国的にも二酸化炭素の排出もやっぱり多いというふうに、地区としてはなっていると思います。ただ、それぞれの水島の企業さんはそれぞれにしっかりと削減計画をつくられていると思うので、その減

り方というのは他のところより多いと思うんですけど、おっしゃっていただいたように、我々一人一人が、削減をしていくということでみなさん、是非、種が必要な方はおっしゃっていただけるとありがたいと思います。

水島地区はコンビナート企業さんがあるということで、他の地区とまたひとつ違う大きな魅力があると思います。そこをもっと発揮をしていきたいなというふうに思っていて、産業観光の方にもしっかり力を入れていきたいと思っています。コンビナートの企業さんたちにもお願いをしまして、たとえば、JFE さんの高炉の見学であるとか、もしくは科学の向上石油精製の工場見学であるとか、そういうところをこれまでと違った、倉敷市のひとつの魅力として、発信をしていきたいと思っています。

(参加者 B)

水島サロンの件ですが、今、倉敷の対応としては、継続審議とお聞きしていますが、この前も市の方に行ってお話しさせていただいたんですが、答が何ともあいまいで、これでは、この先ほっておいたら、結局廃止の方向にいくのではないかと、私はすごい懸念を持っています。それで、トップである市長に対して、今の段階で結構ですから、今はどういうお考えなのか聞かせていただきたい。

(市長)

水島サロンの問題ですが、私どもも昨年、ちょうど 8 月頃に県の方から突然に、もう止めるからという話がきまして、私どもが今、委託は受けてやっているのですが、事前にお話とかはなかったんです。他の市も色んな施設もあるので、同じような対応状況になっていると思いますが、県としては、もう役割が終わったというのか、もう止めたいという話がきました。

その後、市としては、県の施設ということになっているので、止めるのであれば県としてしっかり、何故止めるのかとか、こういうことをしたけれども出来なかったから止めるんだということをよく説明をしてくださいとお願いを申し上げます。それによって、本当は今年の 3 月くらいで、もう、止めようかという話もあったのですが、1 年間、まず、21 年度中ですね、よく説明をしますという話を承っているというのが、県との間の話なんです。

私どもは、県の施設の請負者という立場になっていますので、市がどうしてくださいますとは言えません。ただ、もちろん、皆さまから頂いた要望書については、県の方にお伝えをしています。一言でいうのは非常に難しいのですが、県でできないものを、市ができるというのは難しいですね。県の止める理由というのは赤字でもう続けていけない。じゃあ、それを、例えば、市でやってくださいと県から言われても、県が赤字で出来ないものを、全体のために県がつくっているものを、市が一人で赤字でやってくださいと言われてもそれは難しいなというのが、本音のところなんです。ただ、この 1 年の間で、県の方で、県議会議員さんの間で、どういう議論が今後、交わされるのかなということは、もちろん注目を

していきたいとは思っていますが、市の方で、なかなか積極的に、うちでできますとかは、ちょっと難しいかなというふうに思っています。

(参加者 C)

県ができないものは市ができない。難しいというのは、どこが難しいのですか？そこをはっきり、具体的に言ってください。

(市長)

お金が続かないからです。

(参加者 C)

お金ですか。だったら、どのくらいに下がると市がやっていけますか？それを具体的に言っていたかないと、あそこは老人や若い人が使ってるんですよ。ただ、難しいから止めるんじゃあ私たち困るんです。だから、難しいのを具体的に、お金だったらいくら位だったら、やっていけるから続けますとか、具体的な答えを頂かないと市民としては。

わかると思いますけど、水島は今、荒んでるんです。商店街を見てもわかると思います。みんな困っています。だけど、サロンを中心に水島の町は今、活性化しようとしています。また、サロンがあるから色々な人が来ています。抽象的なことではなくて、具体的なことを、私たちは伊東市長に望みます。ごめんなさい。きつけれど、真剣なことなので、私たちにとっては。

(市長)

それが、何千万ともなかなか言いにくいのですが、まず、県の方に何で出来ないのかという話を、つまり県の言い分としてはですね、水島サロンを止めますというふうに言ったときに、色々な意見公募も随分したと、そのときに、何も意見がなかったと、我々の方には言われるんです。それを、今からでも、県の方に言う機会はあるとは思いますが。県議会議員さんを通じて言われるのがいいのではないかと思いますけれど、つまり、市でやるんだという前提になっていないと、いくらになったらできるという計算はしないです。今のところ。県の方で、いくらだったら赤字にならないでできるかというのを教えてくださいというふうに、言っていただくのが、いいのではないかと思います。

それで、そのなかで、県が削減できるのかどうかということ、例えば倉敷市に委託を今、少ないお金ですけど、頂いてやってるんですけど、それが削減できるのかという検討をするのだと思いますけど、とにかく県が全体の委託料とか人件費とかを全部持ってやっていますので、県の方にじゃあ、いくらだったらサロンを止めないでできるのかというのを聞いていただくというのが、まず、一番ではないかと私としては思うのです。

(参加者 B)

私たちが聞くんですか？

(市長)

市からももちろん、言っています。言っていますけれども、県は県民、もちろん倉敷市民もそうですが、意見がないというふうに言われているんです。意見公募をしたけれ

ども、意見は何にもありませんでしたと、いうふうに言われているんです。そこが、一番の今の現状かなというふうに思います。

(参加者 B)

もちろん、市から県の方に私たちの署名とか

(市長)

お伝えは、もちろんしています。

(参加者 B)

それに対する対応は全然ないのですか

(市長)

今のところはないです。

(参加者 C)

県に対応が無くても、現実には市民が使っていることを、どう考えられるのですか。それは、県と市の関係であって、私たちにはあまりわからないんですよ。現実には、大勢の方がプールにきたりダンスをしたり、色んなことに使っているんですけど、そういう人達にはどういうふうにお答えしたらいいんですかね。私たちも署名を集めた以上、ただ集めただけでは。

(市長)

署名は県の方には持っていかれているのですよね

(参加者 C)

いえ、市だけです。

(参加者 B)

市議員の方にも。県に言ってくれと。だけど、私なんか市民でとりあえず市に言ったら、それを県の方に持っていくという話に、流れがあると思っているんですけど、それを私達が、市に行き県に行き、ちょっとそれはおかしいのではないのでしょうか

(市長)

水島サロンは、県の物なんですね。市議会議員、県議会議員といらっしゃって、それぞれは並列なんです。市議会議員さんが、県議会議員さんの方へ上程するというそういう順番でなくて、市と県は別々のものなんですね。なので、もちろん、こういう要望がありましたということのお伝えはしていますが、県としては、今の状態では県民からの水島サロンに対する意見要望は、直接は受けていないという立場になっているんですね。

(参加者 B)

直接でないとか動かないということですか。市を通して、地元の人から、そういう声が上がっているということは、あまり力にならないですか

(市長)

最初にも申しあげましたように、今、市と県の間のお金について、県が何でもカットしてるじゃないですか。で、その状況からみると、かなり、厳しいのではないかと思います。

県も、お金が続かないというので、とにかく止めるというのが、我々にも言われることだったんですね。

(参加者 B)

景気がいい時だったら、財政があるときだったら、勝手にどんどん作って、財政が厳しくなったら、勝手にきっていくでしょう。そんな行政であつたら、誰でも出来ますよ。それをいかに、平均にお金をまくばり、優先順位があり、やっていって全体を見るのが行政の役目でしょう。市だけじゃなくて、国政も県政も全部そうです。それで、私達、利用者が、一番困るわけです。だから、お金がただ赤字と言ったって例えば公共施設はいっぱいあるわけですよ。それに対して予算を付けているわけでしょう。だったら、それで付けろというわけじゃないですが、今はサロンにすごくお金がかかっているから、それを削って例えば3割でもカットできたら何とか維持できるんじゃないかという線を出してもらわないと、私なんか直接動くわけにいかないでしょ。だから、その辺をプロジェクトを立ち上げてくださいと言ってるんですけど、全然答えが返ってこないんです。だからね、利用者の気持ちというのが全然聞かれていないんですよ。水島サロンだけに限らず、どこもだと思ふんですが、で、県は勝手に企業に聞いたけど全然返答がなかったという。私たちには、これっぽっちも聞いてないんですよ。私なんか去年の秋、新聞で知って、慌てて立ち上げて動いたんですから。その辺の説明も全然なしで、勝手に作って勝手に潰すなという話です。それは怒りを感じます。それで、生計を立ててる人もおられるわけですから、そんな勝手なことを止めてください。

(参加者 D)

水島サロンの件ですが、今、水島を考える場合にですね、サロンが危ない、サンピアがあのような状態でございまして、忘年会その他もろもろで使っていた施設がまったく駄目になった。それから、イオンができたが、今いち芳しくない。それから、商店街も寂れてシャッターが閉まっている。そういった状態である水島が、これでサロンが無くなったらどうなるかということを考えますと非常に寂しいと思います。

それと、チボリですね、チボリも県の答えを待って、それから市が対応しましょう。サロンも県の対応を待って、それから対応を市が考えましょうというような。どうもそのような考え方があってチボリの方は県と市の方がうまくいかなかった。もう少し、市と県が話し合って、例えば、サロンを是非、水島に残したいと言っている。そしたら、市の方は、今サロンに入ってくる道は非常に歩みにくい。もう少し、県の方がきちっとしてください。例えば、駐車場を民間から借りている費用はもう要りません。カットしましょう。それから、入り口まで、車が入れるような非常にスムーズな道路をサロンの前に作りましょう。だいたい入り口へ車が入れない施設はあまりないですね。従って、利用も非常ににくい状態です。そういうことを考えながら、こういうふうに改善してください。県の方でお願いします。それだったら、市も考えますよと。

そういう、投げっていく、向こうも相談に乗ってくれる。そういったものがないと、やは

りうまくいかない。例えば、今、サロンには約1億円の経費がいると聞いているが、6千万を県が負担をして、4千万を市が負担している。そしたら4千万をもう少し利益を上げながら経費を削減して、3千万、2千万にする方法を考えて、そうすれば市の方で、このままの状態でも継続できるのかどうか、その辺の考えをきっちりして、それから県と話し合いをしていただきたいというのが、私の考えです。

(参加者 E)

水島サロン、あれだけの施設は県下でも有数のものだと思いますので、魅力として打ち出していくべきものだと思います。今、お話を伺っていて思ったのは、市民の側も声が届いていないというのは、使われている方々の状況がうまく届いていないということだと思いますし、行政と繋がっていないということだと思います。

例えば、そのなかで、維持費がどうしてもかかる。そこで、使われている方々が、ボランティアで、維持のために清掃ですとか、保守とか、そういうところをボランティアとして、利用者も、市民の方もグループになって、自分たちでやって、その分経費を浮かせてサロンの維持を頑張っていけるようにしたとして、そうすれば、県だって、そんなことをサロンがやっている、市民が本気でやっているんだということになれば、ちょっとこれは考えなければいけないんじゃないかと。そういった一緒に取り組みをしていくなかで、どうやっていったらいいのかという会話もできるようになっていく。そういうふうなことを市民側からもひとつアクションとして、動きができればいいのではないかと思います。

(市長)

水島サロンの赤字の状況ですが、さっき1億円というお話ができましたけれども、通常の施設を、利用料を頂いて使っている他の施設と比べて、約3倍の赤字なんです。なので、非常に高い赤字になっている。それと、水島サロンに最初に行ったとき思ったのは、非常にバリアフリーじゃない建物だと思いました。中にたどりつくまでに、こけたらどうすると、びっくりしました。

よくよく話を聞いてみると、目的が水島の企業さんの交流のために出来ていると、使用目的が普通の公共の建物とは違うということだったので、そういうものもあるのかなというイメージでした。今、言われたように、市の建物としてはバリアな建物であるということに非常に問題があり、市の建物になるなら、県の方でバリアがないように改築をして、その後の建物の維持管理費を出していただかないと市の方でいただくということはちょっと、現実問題難しいのかなと思います。それはまだ、試算をしていないですけども、現状としてそういう認識を今、持っているということぐらいしか、今、お答えができないですけども。

(参加者 B)

当初の目的と今の目的での使用用途が全然ちがうんです。だから、建物も、あんな、中高年にしたら使いにくいとみんな言われます。だから経費の方を県がどれくらい、市がどれくらいというのは別として、絶対削減できると思うんです。今のままで残してくれとは、



私たちも言いません。だから、そういう努力をして、それでも駄目っていうのなら納得いきますが、何のアクションも起こさなくて、ただ経費が1億以上かかると言われても、私たちは納得できかねますけど。その辺を、もう時間がそんなになんていんですよ。今年、9月か10月頃に予算を出さないといけないでしょ。時間切れとなることが目にみえている。

(参加者 C)

玉島には玉島文化センターがあり、児島には児島文化センターがありますが、水島には全然ないんですね。もし、市がサロンを引き取っていただけないのだったら、代わりに水島にも文化センターとしていただきたいと思います。そうでないと市民としては不公平だと思います。水島には何も無くなりますので、よろしくお願いします。

(市長)

サロンとは別の水島文化センターというまちづくりのお話ですね

(参加者 C)

サロンがダメなら、それを文化センターの代わりに使ってもいいと思います。当面、使えるでしょう。そういう目的で使っていますから。財政が良くなったらもっと立派に

(市長)

ご意見として伺っておきます

(参加者 F)

私たちの代表者が、集っているはずですから、選んだ私たちにも市民としての責任があるはずで。それで、市政、行政を、もちろん健全に議論することは大切ですが、あまり自分たちのことを棚にあげて、例えば、県と市のことは私たちにはわからないから市に言ったでは、市民としてはダメですね。県民としての立場もあるはずですから、県、あるいは市の行政というものをそれぞれ、こちらも理解する努力をするべきだと思います。

今、例えば市議の方に言われたときに県議の方へ言えとか、県庁の方へ上がれとか言われたら、何でそうした方がいいのか、あるいはそれをやるならどうした方がいいのかというのが、私はすごく気になりました。やはり、踏むべきステップを踏んで。

もっと言うと具体的に市長に回答を求められていましたが、じゃあ私たちとして何が具体的にできるだろうか。例えば負担料をもし、100%利用費でまかなおうとしたら、いったいどれくらいの試算になってしまうのか。果たしてそれが到底払えないものか、団体使用料金を設定したり、個人使用料金を設定したり、今とは違う料金体系をつくっても無理だろうか。あるいは3セクにまわす、他の企業に買収させる。色んな考え方があると思います。

せつかく、そこまで利用されていて、これがあるというような施設であるなら、もっと色んな手を打つ努力を考えてもいいんじゃないか。さきほど、市民がもっとアクションを起こした方がいいのではないかというお話がありましたが、そこだと思います。

何分、市は私たちと別物でなく、私達そのものです。市議会も市行政も私達そのものです。市にお金がないというのは私達にお金がないということです。もっと言うと、それを

使ってサロンを何とかしろと言っているうちに、市民病院が潰れていったら困りませんか？  
資本には限界がありますから、まずどこに使うか、病院は守りたいですね。

地区の個性として、サロンは必要だ、サロンに皆さんが集まることが、その地域の活性に繋がるといふ、そこを伸ばすのであれば、今回のテーマにドンピシャだと思うんです。だから、市長にウ〜ンと言わせるのではなく、市長にそれならなんとか私もと言われるような意見がでると、もっと切り口が見つかるんじゃないかと思いました。

(市長)

はい、時間も経過しているのです、サロンの話はもうこれくらいにしましょう

(参加者 G)

水島地区っていうのは世界に冠たるコンビナート、これが半世紀前に、豊かな自然の農村の所に割り込んできて、50年経っている。そんな中で、人工物と自然とが融合していかないといけない土地なんじゃないかなと。

市長さんが先ほど、方向性というところで3つあげました。子育てするなら倉敷で、安心安全な街づくり。非常に共感するところですが、その具現化の方策の一つとして市の大型公園を活用できないかなということなんです。

具体的には、福田緑地公園を利用させてもらうことですが、緑地公園というのは現実には運動公園みたいな機能なんですね。公害防止法でできて緑地を設けなくてはいけないということから、ああいう形で木がいっぱい生えているのですが、子育てということからすると、子どもさん連れとか子供さんの遠足などたくさん来てます。それから中高年のウォーキング、ジョギング、そういうこともやって、皆さん健康づくりをしている。

そういう所にももう少し配慮していただいて、ひとつは公園の中に芝生というか、広場を設けてもらえないか。

今、犬ですらドッグランというのがあるわけですが、子供さん、赤ちゃんを連れて来たとき、お母さん方が安心しておれるという場所がありません。遊具広場がありますが、遊具広場が狭く、危ない状態。それを少し広い芝生で遠くから見て安心しておれる。

それから、ウォーキング、ジョギングコースとして、1800メートルというのがあるんですが、もっと整備していただいて、外回りを1周したら1万歩くらいあると思うので、そこを金をかけずにボランティアでつくるなりして、中高年の健康づくり。

若い人たちには運動広場、サッカー場、野球場とものごく充実しております。一番、子育てと中高年に対してそこらが不安なんじゃないかと。もう少し、そうところを検討していただけたら医療費の削減につながるのではなからうかと思えます。

同時に、豊かな自然がありますので、魚介類でも地元の漁師のおじいさんが売りにきます。福田のみかんなど、非常においしい。そういうところから、青空市場を設けていただいて地産地消をやっていければ、みんなが大型公園に寄り合えば、いざというときには防災の観点からもここに来ればいいんだなど。

大型公園っていうものがどうしても、競技者中心になっている感じがする。競技場と違うんだ。公園なんだ。広々した広場、そういった場所がほしいなと思います。

(市長)

福田公園のもっと充実を、ということですね。ここは最大の公園という位置づけができると思います。それで芝生のことなんですけど、ここは公園自体が緑が随分あるのでそこまで考えてなかったのですが、今、幼稚園、保育園とか小学校の芝生化を順次、始めましたので、何校かずつ校庭の全部になるか一部になるかまだわからないんですが、芝生を植えまして、子供さんが滑って大丈夫、転んでも大丈夫というような芝生化を、温暖化の対策ということも含めて、進めていっています。

その中で今、教えてくださった子供の遊具があるところですが、例えば、ここの芝生の整備が出来るかどうかっていうのは、今後よく見てみたいと思います。

それで、ジョギング、ウォーキングのコースですが、1周1万歩くらいなんですかね？

(参加者 G)

1800メートルだから2500歩くらいです、これが1万歩くらいにならないかな？と

(市長)

一番外周ということですか？

(参加者 G)

外周でなくても、もっと外周りができるんじゃないかなあという気がします。みなさん森の中を歩いてらっしゃいます。

(市長)

そうですね、わかります。よく使っていただいていると思いますので、福田の公園は水島の皆さんたちの健康アップの場所だと思いますので、整備の方はよく見直しをしていきたいと思っています。

その芝生のところも含めて、ちょっと周りの2500歩が1万歩になるのかどうかわかりませんが、まず、利用の実態を健康の観点から今、言ってくださった健康でみなさんが長生きしていただければ、医療費も少ない、そのとおりだと思いますので、そういう観点で見直しをしていきたいと思っています。

青空市場については、今、やっていないですよ。今、倉敷の方で三斎市というのをやっていますけれど、そういうものができるのかどうかっていうのは、ひとつには地元の皆さんたちが一緒に参加をしていただかないと。倉敷の方は倉敷の商店街だったり、商工会の皆さんたちが中心になってやってくださっていますので、やっていただける方がいらっしゃるのかどうか、ということからまず投げかけをしないといけないのかなあと思いましたが、非常にいい案だなと思いました。

(参加者 H)

私はコミュニティーの小さいバスを商店街を中心に連島の方と福田の方と、広江の方です。そこらまで回れるバスがあったらいいなと思ってます。と、いいますのが臨海鉄道を玉島へ伸ばして、片一方を児島へ伸ばして、ぐるりと倉敷へ1周できるのがいいと思いますが。そんなことは到底年数がかかりそうなので、早くできそうなのはバスかなあと思っています。

水島のおかみさん会では、芸科大の生徒さんが商店街の活動にいろいろ手伝いしてくださっているんです。月に1回、夢koi実行委員会を開くと来てくれるんですけど、バスがどこで留まるのかわからないから、バスはあるんですけど、ライフパークの辺りから商店街まで歩いてきたりとか、バスの本数がなくて、来ると会議が終わってたりとか。だから車がないと、学生さんたちは動けません。芸科大があっても、たぶん、水島の町に一度も来られずに卒業される人が、いっぱいおられると思うんです。学生さんだけではなく、その地域の周辺の方々が水島の町の方に来ていただけたら、商店街としたら、また活性化につながって、皆さんが来られたらまた頑張らなくてはいけないと思います。そういうことも含めて、バスはどうか？

それで、バスの維持費ですけど、例えばスーパーとか美容院とか、眼科とか歯医者とか、そんなところにもし留まる余地があったら、そういうところに留まって、スポンサーを募る、そのようなことでやっていけないかなあ、安易な考えかも知れないですが、運営まで誰かに頼むのではなく、みんなで考えていって市民のバスにしたい。1回乗ると100円、ぐるっと周ると500円とか、いいキャッチフレーズじゃないですか？

それからもうひとつ。2007年から2008年にかけて、水島のまちづくり交付金のワークショップを5回くらい行ったんです。この中にもこられた方がいらっしやると思うんですが、それがそのままなんです。それがどうなったか、その交付金の事業にあてはまらなかったという、書類が来たような気がするんですけど、きちっとした認識が私たちに無いんです。一生懸命考えたのにどうしたのかな？という思いがあります。そのなかに水島をどんなふうにしたらいいか、いっぱいアイデアがあったんですが、そういうことをまた見直していただいて、出来ることからやっていっていただけたらと思います。

(参加者I)

亀島山のことで言わせていただきます。私、この間、亀島山を友達と登って見たんですけど、ずっと上まで上がって。歩いて行った場合はいいのですが、車で行った場合は入り口がわかりにくい。もうちょっと考えてもらいたいなということと、上に上がった桜がいっぱいあったんですね、これは桜を見る場所にはすごくいい場所なんですね。そのためにはどうしたらいいのかと、周りを見たら、腰掛はあったんですが、シートを広げて、皆と楽しめるような場所もほしいし、アスレチックとかがあったら子どもが遊ぶのにいいんじゃないかな？と考えたりして、もうちょっと人が集まってほしい、観光までにはいかないかもわかりませんが、もうちょっと亀島山を考えてみたらどうか？と思い言わせていた

できました。

(市長)

はい、ありがとうございました。今日、芸科大の学生さんがいらっしゃってますよね？  
今、関係あるような話とかありますか？

(参加者 J)

最近よくいう現代 GP という、産・官・学 3つのグループが手をくんで、企画や、新しいことをやっていこうというようなことを、教育支援センターというところがありまして、そちらのほうで連携してやっております。学生自身も生き生きとして、そういう企画に多人数が参加しております。大学という空間で大学の中での勉強ではなく、地域貢献できるような企画もどんどん学生から出ております。

例えば、こちらにおられる先生も、動物の獣医さんをされている先生で、市民の飼われている動物さんのペットケアなんかについて、うちの動物学科の学生がチェックしたりとか、ワンポイントアドバイスなどをひとつの企画としてできますし。本当にさまざまな学科あります。例えば、アートフェスティバルですね。水島地区でわたしが聞いたことがあるのは、港祭りですね。そちらのほうで、ユニークな外人の先生が中心となりまして、オリジナルのデザインで作ろうとあって、毎年参加して賞の順位もいい順位をもらえるようになってきていると聞いています。

ほんとですね、産・官・学の連携で個性と魅力をのばす、ひとつの手立てではないかと。それが国からというわけではなくて、県からではなくて、市から発信できるようなイベントをどんどん考えていけたら、これは非常にいい機会ではないかと思います。

(市長)

たいへんありがとうございます。芸科大の学生さん、何かいってもらえませんか？

(参加者 K)

水島地区の個性と魅力をのばすテーマなんですけど、私は水島地区の個性と魅力がぜんぜんわからないんですよ。話を聞いていて、水島サロンってなに？って思いますし、さっき、回ってきたパンフレットを見ても、水島ってほんとに観光・名所とかないし、行きたいと思うのは美観地区とか児島の方で。

それに、アート祭りがあるんだったら、うちの大学は芸術科学大学なので、そこを活かして、例えばアート祭がありますといえば、大学の美術工芸学科っていうところにガラスのコースとか、いろんな面白いコースがあるんで、そこに協力してもらえませんかというて、そういうふうに色々作っていったらどうかなと思います。

(市長)

ありがとうございます。水島地区の個性と魅力のひとつは芸科大学だと思っているんです。おかみさん会が一部学生さんたちと協力してやったださっていますが、さっき、お話をしてくれましたように、芸科大には、動物科学科があって、そこで市民のみなさんのペットの、例えば何か悩みっていうのだからできるんじゃないかと思うし、アートのお話をしてくれましたけど、ガラスとか絵とかもすごいですよね。そういうものを、例えば、商店街とかで、やったださってると思うんですが、そういうものがほんと、水島の中で大きな魅力になればいいなと、今日、しみじみと私思っていました。

芸科大は水島地区だけでなく、倉敷市の全体の魅力のひとつでももちろんあるんですが、例えば玉島のみなさんは作陽大学のことをすごい玉島の魅力だと思っていっちゃって、玉島は音楽の町だっていうふうになって、歌のすごいイベントとかもあるんですよ。

じゃあ水島は芸術の町だっていうふうになって、芸科大と地域のみなさんとで色んなことが、できればいいなというふうになって、ちょっと思ったのが感想です。

以前、出して頂いてる、都市再生整備計画、まちづくり交付金の対象にはちょっとならなかったんじゃないかと思うんですが、市の再生として市民のみなさんと取り組めるものが、今、伺った範囲であるんじゃないかという気もしました。2007年から2008年に考えて意見出していただいたものを、見てみたいですし、おかみさん会のみなさんから、お話を伺って見ればいいなと思いました。

ありがとうございます。

(参加者 C)

この前芸科大の副学長さんがサロンにこられまして、芸科大生の作品とかガラスとかを芸科大で飾るっていう話になってまして、そして、無料でおいてほしいということで、無料でおくのは水島サロンしかないのでは。

(参加者 A)

全体的に水島地区 PR が足りないと思うんです。水島に住んでいる若い人ですら、関心がなくわからないでしょ？

さっき、市長は三斎市、朝市のことをいわれたでしょ？魚っていったらだいたい下津井の辺じゃないですか？それが、この前、白石島から来てました。びっくりしました。それは生存競争が厳しい、切磋琢磨しなくてはいけない、自分から積極的に売り込みしなくては、誰が助けてくれるんだ。来ていたのはお孫さんとお母さんとお婆さんと3人で店をやっていたんですが、それはすごい、売り込みがはげしいんです。これは1回付き合わないといけないと思って買ったんですが、2回目に他の人に口コミで教えてあげましたよ。あと、金光からきている女の子が、朝、カフェをやってるんですよ、100円コーヒー無茶苦茶おいしいですよ。でも、商売つけがなくて、ポツーンと立っているんです。僕がセール

スしてあげるといって、人を集めて。100 円の菓子パンとコーヒー飲んで 200 円じゃないですか。そしたら、人ばかりですよ。そういうのをやったらどうかなど。

(参加者 L)

さっき、都市再生整備計画の話が出ましたけれど、やっぱり水島地区の個性と魅力は、色々あるんですよ。みなさんアイデアとかもいっぱい出して、今までもたくさん、計画とかあったと思うんですけど、水島っていうと、連島、福田、水島と地区があって、バラバラで、いいところがいっぱいあるんですが、なんかこう、一つにまとまりきらないというか、人もバラバラで、地域の魅力もバラバラで、情報もひとつにまとまってないし、さっき学生さんが水島に行ってみたいとは思わないと言われたのは、たぶん情報がないからかな？って思うんですけど。

そういう水島地区の特性って、なかなか住民が一体になってない、情報がない。そういう中で、都市整備計画のワークショップで、いろんな地区の人とか、まちづくりをされている人とかが集まって計画づくりをして、そのやり方、手法自体はすごくよかったと思うし、まちづくりをやって行こうという機運も盛り上がっていったし、そういうワークショップの集まりみたいなのところから、水島のまちづくりを考えるみたいな組織になればいいなって僕は参加しながら思ったんですけど。

5 回目の最後のときですね。また、ワークショップに来ているメンバーに案内をし、集まってもらって、計画の続きを考えましょうっていう感じで終わったんですね。

僕は、その後、期待していたんですけど、そこで止まってしまったんです。その先どうなったんだろうと思ってて。せっかくそういう場ができて、ようやく街づくりに関わっている人の顔が分かって、色々やっていこうかなっていうところで止まってしまったんで。是非、市長さんも入っていただいて、水島の街づくりの計画を考える場を設定してもらいたい。

さっきも、交通の問題とかでもいいアイデアが出てますし、色んなアイデアを出すだけ出したんですが、あれはどこにいったんだという話もあるし、そういうのを含めて一度、そういう場を設定してもらえないかなと、個人的に思っているところです。

(市長)

なるほどですね。

さっきの 2007 年から 2008 年のときに考えてくださったものを私、見てないので、まず、それを拝見してみて、お話を伺う機会が持てればなと思います。ちょっと直ぐできるかどうか、わからないんですけど。

まちづくり交付金の対象にならないからといって、まちづくりが進まないというわけではありませので、市の色々な元々あるものの中で、たとえば商店街の活性化、一部は水島の商店街が取り組んでくださってくれてると思いますけれど、そういうものや、産学官

連系ですね。そういうものが繋がっていくといいなというふうに思っています。

ありがとうございます。

私のほうからひとつ伺いたいのですが、連島のレンコンとかゴボウについて意見がある方は誰かいらっしゃいませんか。

(参加者 E)

レンコンとゴボウ、今日、新聞を拝見しまして、連島ゴボウの農家の方が頑張っておられる。40代の息子さんが継がれて、非常にいいことだなあと思ってます。

後ろに地図がありますけど、水島っていうとコンビナート、工場っていうイメージがありますけど、水島のコンビナートっていうのは、もともとあった土地の先の海を埋め立ててつくった工場なんですよ。ですから、水島の今の市街地ですとか、もうちょっと北の方にいった所は田んぼとか畑とかたくさん残っていて、工場と農地とが混在しているというか一緒になっている所なんですよ。そういう所だからこそ、さっきおっしゃられたゴボウやレンコンという、素晴らしい特産品があると思うんです。

ただですね、工場のほうがメインになってきていて、水島の畑が市街化区域になってまして、農家の方が言われてましたが、農業をやろうと思うと相続税がすごく高くてなかなか農業を続けていくのは難しいとおっしゃっていた。せっかくこれだけのいいものがあるながら、それを残していけないような状況になってしまっているのは、もったいないなというふうに思っています。ですから、そのところをなんとか農地を、農家の方を守っていく、そういう素晴らしい政策的なお考えをいただきたい。

あともう一つは、これからちょうどレンコンも育ってきて、蓮の花がすごくきれいな時期になってきます。倉敷の美観地区に行くと、モネの睡蓮が非常に有名ですけど、連島の鶴新田地区のほうも、あれとはまた違う迫力が、道の両側に広がっている。蓮畑の中にたくさん蓮の花が咲いている。

レンコンとかゴボウとかその物も大事ですけど、そういう物を育てる土地があるというか、バックグラウンドがあるっていうのがひとつ水島の大きな魅力であると思いますので、そういうところから伸ばしていくことが出来たらいいんじゃないかなと思っています。

(市長)

ありがとうございます。

さっき言っていた、亀島も四百年前は島でだんだん埋め立ててきた。連島のゴボウとレンコンですね、かさや農協さんが作られている色の白いゴボウは本当に質がいいものですし、私が伺っているところでは、四国の松山の人ほとんどが連島のゴボウを食べていると伺っています。

例えば、関東、関西、京阪神のほうにもっと出荷できないものかなというふうに思います。やっぱり農家のみなさんたちがゴボウで生計を立てられるようにというためには、



そのものが有名になって売れるっていうのが一番重要なことにつながってくるんじゃないかと思うので、連島のゴボウとレンコンはしっかり売っていきたいというふうに私は思っています。

(参加者 M)

水島って個性と魅力が、なかなか無い街だとずっと思っていて、他の地域と比べると損なような気がしてまして。

水島コンビナートっていうのが財産であり、いい面悪い面両方を持ち合わせた水島っていう地域っていうのがひとつ特徴かなってずっと考えていて、その中でどうやったら水島の個性と魅力を伸ばすかなって思ったりしているときに、エコタウン水島って。企業に頑張ってもらって、エコな町、水島っていうのを新しく作りだそうって思ったんですけど、それを自分で考えているときになかなか協力してくださる方がいらっしやらないなと思ひまして、みんなが喜ぶことを考えないといけないと思ひ、去年、ひとつ、すごい名案を思ひつきました。水島にサッカー場をつくりたいと。

水島にサッカー場をつくりたいっていうのは、いろいろ理由があるんですけども、まず、ひとつは水島には三菱自動車水島 FC というサッカーチームがあります。今年も J F L で頑張っています。まだ勝ててないですけど。水島の人にはそれを知らないし、応援もなかなかできない。

これは、水島にサッカー場がないから、水島で試合をしないんですよ。そのサッカーチームは。笠岡が本グラウンドなんです。笠岡陸上競技場で試合をしても、やっぱり水島地域の人にはなかなか応援できないですよ。水島にサッカー場ができれば水島で応援できると。水島ってすごいサッカーが盛んな地域なんです。ユースチーム、小学生のチームなんかは、県下有数のチームが J F L の関係であります。中学生のチームは、ハジャス F C っていう、これも県 No.1 のチームだったんですが、今はファジアーノユースが県 1 番になってきてまして、もともとは J F L でがんばっていたのは、三菱自動車水島 FC で、本当は J リーグに行こうと頑張ったのは彼らなんです。

もうひとつは、J F L の試合をしようとする、観客席をつくらないといけないんですよ。有料なので。そういう有料の試合ができるサッカー場は、岡山県内だと、美作のラグビーサッカー場と、桃太郎スタジアムと笠岡の 3 つしかないんですよ、J の試合は桃太郎しかできないから、そういうふうになっているんです。

それを僕は、水島中央公園に作りたいです。水島中央公園に野球場があるんですよ。その反対側には噴水があります。噴水も憩いの場でいいですけど、あそこにサッカー場をつくって、三菱自動車水島 F C の試合を年間何試合かしてもらおう。それから、子どもたちにも使えるサッカー場にする。プラス、もちろん、ファジアーノさん、これはもう岡山県全体で応援してますよね？ファジアーノさんの試合をホームが 10 何試合あると思うんで

すけど、そのうちの3試合、4試合くらいは倉敷地域の水島のサッカー場でやってもらう。

そうすると、臨海鉄道を通ってお客さんがきて、みなで応援しよう。商店街を通過してサッカー場に見に来てもらう。そうすると、商店街に人が通って、商店街は人が通ると町も変わると思うんです。そこで商売が生まれますし。

そうならないかなあと思いつつ、さらに三菱つながりで、三菱浦和レッズの試合を年間1試合くらいすると5万人くらいお客さんがくるらしいですね。そうすると、水島の人口くらいのお客さんが水島にくる。そんなすごい、水島ってすごい町だなあ〜と僕は思いまして、想像で楽しくなって夢があるなあと思いながら。

そうなってくると、水島ってサッカー場のある町で、街づくり交付金のお金が使えたと最高だな〜と。公園の整備事業にお金があるんですよ。サッカー場はダメだと市の人が言うけど。水島だけ、まちづくり交付金のお金が使えてなくて、そのお金を使って40億円ほどあったらサッカー場ができるのになあと思って。40億円くらい。僕の夢です。

(市長)

ありがとうございます。壮大で。

さっき言うてくださった、芝生の話も、徐々になんですけど芝生化を進めたいと思っていますので、サッカーをする子どもさん達も増えてくると思います、もともと多いっていうお話だと思いますけど。

環境整備は一度にはちょっと難しいと思いますけど、でも、構想で人が流れるという考え方はよくわかります。

はい、ありがとうございました。もう時間になりました。

今日はですね、6時半から1時間半の間に本当に、色んなことを教えていただきまして、ありがとうございました。お話を頂いたことをよく考えながら、市政にも活かしていきたいと思えますし、みなさんから教えていただいたことは、必ず参考にさせていただきたいと思っていますので、今後ともこんな会ですけれども、また機会がありましたら是非おいでくださいますようによろしく願います。

今日はどうもありがとうございました。